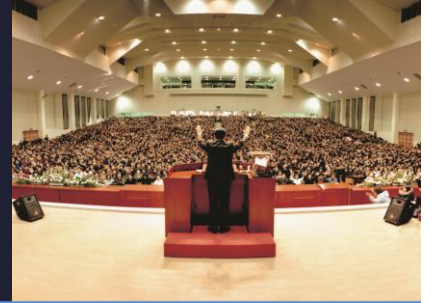


恵みと真理のニュース



2018 年 3 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

大きい交通事故にあって重傷を負った夫を神様は治療してくださいました

“わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。”

真の愛である神様は主の慈しみと誠実さで与えてくださる恵みに感謝捧げます。今まで生きてきたのはすべてが父なる神様の大きい恵みです。今まで神様を信じ仕えながら受けた神様の恵みは話せられないほど多いです。その中で新婚の時、体験した神癒の恵みを証したいと思います。

私は 1986 年に結婚して旦那が通う恵みと真理教会に移して熱心に信仰生活をしました。1988 年の冬雪がたくさん降るある日の夜でした。退勤をしてもうすぐ 10 分後くらい家に着くという旦那がその時間が過ぎても帰宅しないので心配していましたが、警察署から電話が来ました。旦那が交通事項に合っ

て今病院の応急室にいるということでした。

まだ生まれたばかりの赤ちゃんを背に背負って神様に祈りながら病院に向かいました。病院に行く間、“大きい怪我はしてないだろう。”と思っておかしいが心は平安でした。病院に着いて応急室に入ったら旦那が私を見て笑っていました。一方で安心してどうなったか聞きました。雪道で車が滑り中央線を越えて反対側から来るトラックと衝突する事項に合ってしまったとしました。

医師に呼ばれて旦那の状態を聞くと非常に危ない状態でした。坐骨が壊れて動いてはいけなし、万が一、出血が見えるようになると危ない状況が来るかも知りませんでした。思った

より旦那が大きい怪我をしたのです。それにも主が下さる平安で大きく心配ませんでした。

しかし、旦那は治療を受ける期間が長くなり状態がよくななかったです。私は旦那のお下の世話までしながら“しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには／義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように／躍り出て跳び回る。（マラキ書 3：20）と御言葉に委ねて神様を仰ぎました。一日中病の床に就いている旦那を介護しながら一日も休まずに教会の早天祈り会に参席して涙と鼻水を流しながら神様に叫んで切に祈りました。

そうする中で驚いた事が起きました。ある日、その日も変わりになく祈り会に参席した時、祈り時間に当会長の牧師が癒しの祝福の祈りをしながら“この時間、交通事故で骨が壊れた人はその骨がついて完全になるようにと祈って宣布しました。どう私たちの事情をしておられて祝福する御言葉と祈りでした。その瞬間私は神様が旦那の治療してくださいさるのを確信してアメンとして大きい声で答えました。

喜んで感謝しながら病院に戻ってベッドで横になっている旦那にこの事実を伝えました。

“あなた！当会長牧師が交通事故で骨が壊れた人が治ったと話してくださいました。神様が治してくださいさるから信じて起きてみてください。”としました。すると旦那は“そう本当？”として体を動かそうと起きてベッドに体をもたせ掛けて座りました。それだけでも奇跡でした。私が再び旦那に”痛いところがあるか、骨が刺されるところがないのかと聞くと旦那はその場でもっと体を動かして痛くないとしました。これからベッドに降りてそろそろと歩こうとしたら旦那はその通りしました。そして、歩いても痛いところがないとしました。本当に驚いたことでした。

旦那が一人の力で病室でゆっくり歩いて動く時に看護師が入っ

てきてその光景を見ました。看護師はびっくりして“そうしてはいけません。ためです。”と現在の体の状態では絶対に動いてはいけませんとしました。私はわかったと答えた後、看護師がいない時には旦那を起こして歩かせました。その後、旦那はうそのように正常的に歩けるようになって今は不便なく生活をするようになりました。神様は壊れた骨を付いてくださって治療してくださいました。

“わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。”（ヨハネによる福音書 14：27）という御言葉の通り、神様は私たちの夫婦の心の中で神霊な平安を下さって大きい事項に合っても落胆しないようにしてくださいました。また“信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいさる。（ヤコブの手紙 5：15）御言葉を下さり、希望の中で神様に祈るようにしました。そして、当会長の牧師が祝福してくださいさる、祈りに答えてくださって旦那を治療してくださいました。ハレルヤ！旦那は健康になって病院を退院しました。

生きておられる神様の権能を体験して私たちの夫婦は信仰がもっと強くなりどんな状況でも相変わらず主を愛して生きるようになりました。今、旦那は長老で私は女性奉仕連合会の会長の重責に任されて恵みと真理教会と聖徒を仕えています。足りないが、自分なりに熱心に職任を担えるため努力しながら日々主を喜ばれる喜びと主に対する感謝で満たされました。尊い職分と使命を下さる、今日も御言葉と聖霊で充満な生活と祈り生活、伝道して仕える生活からくる幸福を感じながら生きるようにしてくださいさる神様に感謝と賛美を捧げます。



【信仰コラム】

絶対的な判断基準と適用

”この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、...”
（ヨシュア 1:7、8）

私達は様々な身体器官の機能によって私物を認識して判断します。そして経験、慣習、制度、規約、法等を基準に私物を認識して判断します。このようなことは絶対的な判断基準ではありません。キリスト人には絶対的な判断基準があります。それは聖書です。聖書は神様の約束と命令が啓示されている本であるので聖書を神様の御言葉だと呼びます。キリスト人とはその絶対的な基準で私物を認識して判断する人です。生活の誠な成功と失敗はその絶対的な基準に対する知識の深さと適用の範囲に関連されています。聖書にはこのような事実を説明して証明する事件で満たされています。

旧約聖書の民数記 13 章と 14 章に記録されたカナン地を探った人々に関する事件を調べてみましょう。エジプトから出たイスラエル民は神様が彼らの祖先に言約なさって許されたカナンの地に向いて行進して紆余曲折の末、カナンの南部警戒線であるパランの広野カデシ、パルネア地域に至りました。モーセがここで 12 人の回し者をカナンに派遣しました。回し者達はカナンの全地域を 40 日に渡って探り、帰って民達に報告しました。カナンの地が乳と蜜の流れる地という事実を確認して感じたのは 12 人全て同一でした。しかし、その地を占領することに対

しては見解が異なりました。科学的分析という側面では 10 人の回し者とヨシュアとカレブの現実状況に対する見解が同じでした。しかし、信仰的な側面での見解は互いに相反しました。民達は 10 人の回し者達の否定的な報告を聞いて絶望を感じて夜中嘆きながら泣き叫びました。そして結局”ああ、わたしたちはエジプトの国で死んでいたらよかったのに。この荒野で死んでいたらよかったのに。”と話した彼らの話し通りになってしまいました。民達は”なにゆえ、主はわたしたちをこの地に連れてきて、つるぎに倒れさせ、またわたしたちの妻子をえじきとされるのであろうか。エジプトに帰る方が、むしろ良いではないか”と話しました。神様の善の思いをこのように歪曲して悪評するまでに至ると再起不能の状態になってしまいます。民達はまた互いに”わたしたちはひとりのかしらを立てて、エジプトに帰ろう”としました。神様が命令なさった御言葉を無視して他の代案を立てるのは愚かの極致です。イスラエル会衆は絶対的基準を捨てたので肉に属した情報、不信仰的な情報を受け入れるようになりました。その結果で情緒的な混沌に陥り、指導者を恨み、神様を恨みました。否定的な予測をして、滅びる道を選びました。事態がこのように進展するのを見たヨシュアとカレブが服を裂きました。

聖書で服を裂く行為はたいいてい心に感じる激しい悲しみや相当な苦痛を表現する象徴的な行為です。ヨシュアとカレブは民達の考えと態度を正しくするため、信仰を持つようにするため叫びました。まず、カナンに対する情報を神様の御言葉を基準にして判断するよう促しました。

そしてカナンに入ることについての現実的な問題を解決する信仰的な方法を提示しました。神様を喜ばせるのが最上の方策だと知らせました。そして続いて、どのようにするのが神様を喜ばせるのかを話しました。そして”主が私達と共におられます。”と話しました。

神様の御言葉を物事を判断する絶対的な基準に扱う人はヨシュアとカレブのように問題の前で私達が取べき態度を正確に話します。10 人の回し者は神様の刑罰を受けて災いで死にました。ヨシュアとカレブは後日、イスラエル子孫達を乳と蜜の流れるカナンの地に導きました。情報それ事態が私達を興したり滅びたりするものではありません。その情報に対する分別と選択、決断がそれに相応する結果をもたらします。私達が神様の御言葉を全てのことの判断基準に適用すると神様が喜ばれます。神様が共におられます。神様が約束を叶えてくださいます。真実と全能は永遠な神様の属性です。

「チヨヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

一生の間に責められることが全くなくて、住んでいる人はいません。責められるのは愉快なことではないが責めされることすべてが悪いわけではないです。聖書には、神から責められた人々の記録があります。責めを聞いて悟りと肯定敵な変化を見せた人もあれば、もっとかたくなになくなって捨てられようになった人がいます。イスラエルの偉大な指導者モーセも神から責められたことがあります。どんな事で責められ、その責めをどのように受け入れたのかを見てみましょう

第一は、モーセがホレブ山で、イスラエルの指導者としての使命を受けたとき、神から責められたことがあります。

モーセの 120 年の生涯を 40 年ずつ三つで区別することができます。王宮生活 40 年とミデヤン羊飼いの生活 40 年とイスラエルの指導者生活 40 年です。モーセが羊飼いの生活をする時でした。エテロの羊の群れを率いて、荒野の西側に達したとき燃えるしばを見ました。モーセがその木の近く進もうとしたら神から「モーセよ、モーセよ」と呼びました。神はモーセに言われた「わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人をエジプトから導き出させよう」しました。「モーセは神に言った、「わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人をエジプトから導き出すのでしょうか」としました。神が言われた「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えるであろう」（出 3:12）しました。神はモーセに、イスラエルの長老たちを集め、彼らに話すのをこのメッセージを与えました。そしてエジプトの王をかたくなにして神からあらゆる奇跡を行い、その国を打って屈服させるので、イスラエル人がエジプト人から金銀や衣服や物品を堂々と受けると言われました。それでもモーセは言った、「しかし、彼らはわたしを信ぜず、またわたしの聲に聞き従わないで言うでしょう、『主はあなたに現れなかった』としました

神は「あなたの手にあるそれは何か」彼は言った、「つえです。それを地に投げなさい。彼がそれを地に投げると、へびになったので、モーセはその前から身を避けた「あなたの手を伸ばして、その尾を取りなさいそこで手を伸ばしてそれを取ると、手のなかでつえとなった。「あなたの手をふところに入れなさい」。彼が手をふところに入れ、それを出すと、手は、らい病にかかって、雪のように白くなっていた「手をふところにもどしなさい」彼は手をふところにもどし、それをふところから出して見ると、回復して、もとの肉のようになっていた。モーセは主に言った、「ああ主よ、わたしは以前にも、

またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです」「それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろうそこで、主はモーセにむかって怒りを發して言われた「あなたの兄弟レビびとアロンがいるではないか。わたしは彼が言葉にすぐれているのを知っている。見よ、彼はあなたに会おうとして出てきている。彼はあなたを見て心に喜ぶであろう。あなたは彼に語って言葉をその口に授けなさい。わたしはあなたの口と共にあり、彼の口と共にあって、あなたがたのなすべきことを教え、」（出 4:14,15）。モーセはこの時、受けた責めを教訓するためにちょうどこのような態度を修正します。その後は、「私はできません。」という言葉を手放しました。

第二は、モーセが紅海の前でジレンマに直面したとき、神から責められたことがあります。

エジプトから解放されたイスラエル人がモーセの指導の下で導き紅海に着きました。モーセは神の指示のどおりに、イスラエルの子孫を、その浜に陣を置きました。このニュースを聞いたところ、イスラエルの子孫を捕らえるために特別戦車 600 台と騎兵と歩兵を率いて追撃しました。イスラエル人はエジプトの軍隊が走ってくるのを知ると、ひどく恐れ、モーセを恨みました。モーセは、神が予告なさった言葉を心に置いて確信に満ちた声で民に言いました。「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょうあなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。」モーセは神に助けを求めしようとして叫びました。その時、神様がモーセに責めて「主はモーセに言われた、「あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人に語って彼らを進み行かせなさい。あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人に海の中のかわいた地を行かせなさい。」（出 14:15、16）としました。モーセは神の指示のどおりに杖を手にとってその手を海に向かって差し出した。すると神は大きな東風を送って水を分かれることになりました。割れた水が左右に壁のように立っていました

海の中で生じた乾いた道の地面になりました。イスラエル人がほとんど渡ったとき、エジプト軍が追いかけて海の道を走って来ました。彼らはしっかりと歩くのが難しい戦車の車輪が剥離された。恐怖を入れ食った彼らが逃げるしようと慌ていました。イスラエル人皆が渡ると神がモーセに指示されました。「そのとき主はモーセに言われた、あなたの手を海の上にさし伸べて、水をエジプトびとと、その戦車と騎兵との上に流れ返らせなさい」モーセは、すぐに手を海の上に出して海が元に回復しました。エジプト軍があたふた逃げたが、すべて絶滅してしまいました。モーセは恐れにとらわれて叫ぶイスラエルと疾風怒涛のように走ってくるエジプトの戦車と騎兵を見ながら、神に叫び祈りました。その時、神様はモーセに言われた、「あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人に語って彼らを進み行かせなさい。

あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人に海の中のかわいた地を行かせなさい」（出 14:15、16）しました。モーセは神から責めを聞いて、祈りだけしているのではなく、自分ができるところまで行動しなければならないということを悟ってすぐに実行しました。人が神を頼って行動するときに達することになる限界点は全能の神が私に助けの手が届く接点になることを悟るので

第三は、モーセが晩年にカデシュ・バルネアで神から責められたことがあります。

エジプトから出たイスラエル人が荒野の生活をした後、カデシュ・バルネアに着きました。水がなくて困った時会衆が集まって、モーセとアロンを誹謗した。モーセとアロンが会幕の入り口に行って顔を地に向かってひざまずく倒れて主の栄光が彼らに現れ、主は言われました。「あなたは、つえをとり、あなたの兄弟アロンと共に会衆を集め、その目の前で岩に命じて水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませなさい」（民 20:8）モーセが神の命令の通りに杖をとりました。モーセとアロンが会衆を、その岩の前に集めて、モーセは彼らに言った、「モーセはアロンと共に会衆を岩の前に集めて彼らに言った、「そむく人たちよ、聞きなさい。われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならないのであろうか」モーセが自分の手を挙げて杖で岩を二度打つと水が多く湧き出しました。ところが、主はモーセとアロンに責められるのを「そのとき主はモーセとアロンに言われた、「あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らにあたえた地に導き入れることができないであろう」（民 20:12）しました。モーセは神の命令通りにせずに怒りを発し杖で岩を二度打ちました。モーセは不平と恨みを民が見たときに感情が激しれたものです。岩に向かって命令と岩を杖で打つことは全く別の行動です。モーセが岩に水を出しなさいと命令しないで岩を杖で打っても水が出てきたので、神がモーセを認めていただいたと誤解をしないでください。神の民に水を与えようと意図したため、水が出てきたのです。神はモーセとアロンに責められるのを「そのとき主はモーセとアロンに言われた、「あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らにあたえた地に導き入れることができないであろう」（民 20:12）しました。この懲罰の予言は、カナン進入前のアロンがホル山で死んでモーセがモアブビスガ山で死なれました。神の聖なる栄光を遮る行為は重大な犯罪です。私たちの不信仰と不従順で、神が現われる栄光を妨げることがないようにしなければなりません。

モーセは謙遜で賢い人でした。神の警めを聞けば、その教訓を心に深く刻みました。そして、神をさらに頼って畏敬しました。聖徒の皆さんは、このようなモーセの態度を見受け、彼が責められたことから得た教訓を、あなたのもので基づいて下さい。

神から責められたモーセ